

本年度の梧桐会総会は 書面議決で開催します。



第68号

令和4年4月1日発行

発行所

事務局・東京都大田区新蒲田

3-18-1-507 渡部良彦方

TEL/FAX 03(3730)8117

E-mail: aogiri_kai@yahoo.co.jp

編集人 渡部良彦

HP担当 齋藤哲也

発行人 川村治

ご挨拶



梧桐会会長 川村 治

今年三月には桜の開花と共に、暖かい日が続いたと思えば、その後は真冬の天候に見舞われたりと、桜の花も戸惑うような季節となりましたが、四月七日に行われました高校の入学式には桜が散らずに入学を歓迎するかのごとくに咲き誇っております。

コロナ禍は、まん延防止重層措置が解除されたとはいえ、依然として感染者数の減少が見られず、予断を許さない状況が続いておりますが、梧桐会会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。

日頃より同窓会の活動に対し、大いなるご理解とご支援を頂戴しておりますことに厚く感謝申し上げます。さて、今年と同窓会総会に付き、幹事を招集し、過去二年間開催できずにおりましたことから、今年は総会会場での並び方を工夫すれば開催にこぎ着けるのではとの意見も有りましたが、飲食を伴えば飛沫によるコロナの感染が十

分に考えられるとの結論となり、本年も書面による総会とさせて頂く事と致しました。ご了承の程よろしく御願ひ申し上げます。会計の収支決算予算の議題が有ります事から、梧桐会会員皆様方の議決が必要となります。議決権の行使是非お願ひ申し上げます。

令和四年三月十二日には大崎高校の第七十三回の卒業式が行われ、本年は二六九名の方々に梧桐会新会員として入会をして戴きました。感謝申し上げます。梧桐会の財政面ですが、毎年の新入会員から頂く終身会費七千円と会員の皆様からのご寄付により活動をカバーする事としておりますが、消費税増税による会報郵送費や印刷代の増加も有り、中々厳しい状況ではございます。今後とも経費を極力抑えながら、学校支援や同窓会活動を推進して

世間を脅かす様々な出来事が起こっており、将来の予測が難しい世の中になったことをあらためて実感しております。毎朝、マスクをして登校してくる生徒一人一人の顔を見ると、安心、安全、平和とは何かと今一度、考えさせられるとともに、次世代を担う本校の生徒の未来を豊かなものにするために、先を生きてきた私たちが、負の遺産を継承させてはいけないと感じる次第です。そもそも日本人は勤勉であり、仕事をまじめにする民族といわれます。しかし、

参ります。ここで梧桐会としての提案が有りますが、同窓会の事務局として現在の住所は事務局長(渡部)の自宅となっておりませんが、当人を含め、同窓会幹事の大半が幹事を承らるべく続けて頂いている事から、事務局の仕事(会報発行業務等)を外部委託する事も検討してゆかねばならないと思っております。事務局の場所移設も視野に今後同窓会活動を盛り上げたいと考える次第です。会員皆様方のご意見を広く頂戴出来れば大変有り難く存じます。

勉強で人を育て、 部活動で人を育てる 学校

令和4年度、新たに279名の新入生を迎え、教育活動がスタートいたしました。コロナ禍となつて3年が経ちましたが、依然として安心・安全の日常を



都立大崎高等学校校長 前畑 光男

取り戻すことなく、教員生徒、保護者とが一体となり、生徒の学校生活充実を支えております。世界に目を向けてみますと、コロナだけではなく、

このコロナ禍によって、勤勉性を失うべき職場を失われた人がたくさんいます。これらのことを考えると、将来有望な若者を育てる高専は、「勤勉にどう働いていくか」という日本人の意識をさらに高めていくのではなく、「人として、どう生きるのか」に重点を置くべきであり、物質的にも経済的にも豊かになることが必ずしも幸せにつながることを今の若者に気付かせなければいけないと強く思うのであります。

結びに、一歩ずつ大人の階段を登る生徒が、しっかりとした感性を身に付けるために、本校は、勉強で人を育て、部活動で人を育てる学校として、生徒と真摯に向き合い、全力で寄り添っています。

今世の中では、大人になりきれない、大人と見なされない若者が多くなったことも否定できません。私たちは、これまでも、これからも、勉強や部活動を通して人を育てる視点に立ち、この歴史ある学校の伝統を引き継いでいくことを約束し、御挨拶とさせていただきます。

令和4年度 梧桐会総会開催 (書面議決)のお知らせ

日頃から、梧桐会の活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。さて、梧桐会では、例年この時期に定期総会を開催しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止という観点から、昨年に引き続き書面議決を行うことに致しました。

つきましては、この総会資料をお読みの上、お手数ですが**令和4年6月30日(木)必着**で、書面表決書の手紙を梧桐会事務局までご提出ください。

議案の可決につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、賛成が過半数を超えた場合に可決とさせていただきます。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

なお、令和4年4月2日に開催しました役員会において、各議案については審議済みであることを申し添えます。

- 議案第1号 令和3年度 収支決算報告について (下記会計報告参照)
- 議案第2号 令和4年度 収支予算(案)について (下記会計報告参照)

梧桐会 会計報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日



※郵送を希望される方は、左の送り先をご確認ください。
訂正・変更等ございましたら、ご記入をお願いします。
同封の目隠しシールを貼り、投函してください。

ご返送をこちらのはがきと同封されている方は、
同封の目隠しシールをご利用ください。

今年にこちらのはがきが同封されている方は、
ご返送をお願ひします。

情報保護シール

本年度の梧桐会総会の議決権を行使します。
 承認 不承認
 議長に一任します。
 上の□にチェック(☑)を入れてご返送ください。
 ※次号から会報の郵送は 希望 不要 です。

令和3年7月吉日
梧桐会 会員各位
梧桐会会長 川村 治

令和3年度梧桐会総会 (書面議決) 結果報告

昨年度実施致しました梧桐会総会書面議決にご協力いただき、誠にありがとうございました。令和3年6月30日を締切として、ご提出頂きました書面議決書について、結果を下記の通りご報告申し上げます。

記

令和3年度議案

議案第1号

令和2年度 収支決算報告について

議案第2号

令和3年度 収支予算(案)について

議案第3号 役員改選について

書面議決書発行総数 11,218名

提出総数 2,285名

① 承認 1,171名

④ 議長に一任 1,104名

⑤ 不承認 10名

ご提出頂きました書面議決書総数 (2,285名)

承認 1,171名 議長に一任 1,104名

合計 2,275名

過半数以上の承認を頂きましたので可決されました。

パン屋を始めて

元教員(国語) 三谷 博俊

2022/03/12



八十歳という歳でパン屋を始めた。成り行き上そうだった。私自身も驚いたが、回りの人はもって驚いた。田舎に帰って悠々自適の生活を送ると思いきや、いき

驚いたこと

驚いたと言えば、ヒヨドリだった。雀にパン屑をやつていたら、何羽か一緒にやつて来た。この鳥については、昔「ヒヨドリの頃」という文章が教科書に載っていて、野性的でありながら利巧な鳥だというふうに書かれていたし、そのように教えていた。ところが、これがとんでもない代物だった。

家の近くに畑があり、パンの材料にもするといふので、野菜作りを始めた。大根、白菜、キャベツ等を植えた。ところが、そういう野菜をヒヨドリが食べまわった。小さい苗から大きくなつたまで、食べて食べて、食べつくし、野菜は丸坊主にされた。その様はとて自然との共存などと言えぬものではなかつた。あの鳥のことを、美化して教えるべきではなかつた。

千五百円と出る。機械のくせにやけにデリケートなのである。そうなる、私はもうめちゃくちゃになり、傍に置いてある算盤を取り出し計算しようとする、その算盤が古い形の五つ珠で更にややくしくなり、あわてて計算機を取り出すことになる。何のためのレジの機械だか意味が分からない。こんな古い機械は取り替えてやると思つてはみたものの、機械の方は逆に、古くなつたお前をこそ取り替えて思つているかも知れない

いろいろなお客さん

パン屋をやっていると、いろいろな人がいる。店のことや、善悪からだと思いを謙虚に聞いている。人間ができてくる。店の名前を

ヒロバケリー

(ハワイ語で、結ぶ、つなぐという意味)と付けたところ、意味が分かりにくいので変えた方がいいという。パンを袋に詰め、その口をビニールの紐で閉じて売り出す、開けるのが面倒だからやめた方がいいと言

か、これがとんでもない代物だった。家の近くに畑があり、パンの材料にもするといふので、野菜作りを始めた。大根、白菜、キャベツ等を植えた。ところが、そういう野菜をヒヨドリが食べまわった。小さい苗から大きくなつたまで、食べて食べて、食べつくし、野菜は丸坊主にされた。その様はとて自然との共存などと言えぬものではなかつた。あの鳥のことを、美化して教えるべきではなかつた。

いと考え直し、近所のスーパーのレジをやっている女の子を、改めて尊敬したりする始末であった。そんな状況である故、売り上げの現金とレジの総計が合つことはほとんどなく、確定申告の際、それをそのまま会計士の人に渡して頼んだところ、帳簿の体をなしていない、これでやれというの酷だと言われ、しょうぼりし、この年になつて簿記をやるのかと思つたら、商売の奥深さを感じたのであった。

真剣に考えたこと

寺田寅彦の随筆に、電車の乗客の流れについて書いた作品がある。確か満員電車の次に乗る乗客は少ないというふうなことが書かれていたと思う。パン屋に来る客の流れは中々読みにくい。あるようでない。昼休みの時間帯は少ないと言え、よく分からない。朝どつと来たかと思つたら、その後暇だったり、もう今日は来ないかと思つていると、十五分くらいであつという間に売り切れたりする。

そのことで大変驚いたことがあつた。後に隣町に大手のパン屋が開店したことが原因だと知つたが、その時には分からなかつた。開店して一時間経つても、二時間経つても客が来なかつた。来る気配も全くなかつた。一体どうしたのかと思つた。不安になつた。開店して間もない頃、ある客が突然、売れ残ると大変でしようと言つたのを思い出した。

三百個くらいはパンがずらりと並んでいるのは、壮観と言えは壮観だが、これを一体どうするのだと思つた。知り合いや親戚の人に電話をして頼むと言つても迷惑な話だろうし、毎回そんなことをやつていられないだろう。近所に配りまわるとすれば、買つてくれた人に申し訳ないだろう。かと言つて、このパンを夫婦で食べきれぬものではないし、捨てるわけにも行かない。パンの山を見ながら、二人で溜息を付くばかりだった。その一方で、パ

で、何事かと思つている、食べて美味しかったので、もつと買いたいと言ひ、沢山買って帰つたのには驚いた。

ン屋を止めても、私には年金があるし、飯は食えると思いつつも、そんなことを思つてからだめなのだと反省したり、ここではまだ止められないと思つたりした。しかし、パンで食べられている人は、こんな場合どうしているのだろうか、妻子を養つているとしたら、さぞ大変だろう等と、全国のパン屋のことを気遣つたりした。その時初めて、商売の難しさと厳しさを感じ、怖ろしいときと思つた。売れ残つたパンは、東京の子供達に送り、何とか切り抜けた。

近所の蕎麦屋の話によれば、商売は弱気になつたら、終りだ、あくまで強気で、その分蕎麦の研究をしなればならないと言つた。私には商売のことは、

さつぱり分らないが、教科書編集のことを思い出せばよいかというのを。変な話だが、そんなことは店を始める前に考えておくべきだったのに、始めて半年も経つた今頃そんなことを考えるのは、どうかして思ふと思ふ、だからこそ始められたのだと思ひ直した。

が大切だ。その為には、パンの研究をして種類を多くし、なじみのパンとバラバラよく出すべきだ。並べ方や包装のし方も考えなければならぬ。それに、パン屋の名前も面白いにこしたことはない等と、偉そうなことを言い立て、妻は妻でパン作りに励み、考えに考へて、パンの説明書きの他に、ハム・ハム・エブリデイとか、キャベツ畑でつかまえて、とか、大根爛、といったような名前を付けて売り出した。それを見て見ている人が居たので、分かりますかと聞くと、「わしにやあ、よう分らない」と言つた。パン屋を始めて二年近くになるが、そうした努力の結果、どうか分らないが、完売している。

パン屋? それとも教師?

私が大崎高校で勤務したのは、昭和四十五年からの十年間くらいで、五十年以上も昔のことである。良い思い出しかない。今、思うことは、もしあの時に戻れたら、そして、もしパン屋をやつてから教師になつていたら、間違ひなくもう少しましな教師であつたはずだということである。妻はパン屋の他に、時々



山口県大島郡周防大島町西三蒲 1650
毎週土曜日営業

会員だより

思い出



浦井 しげみ (昭和46年度卒)

高校時代、はや何十年前... 生気にも見様見真似、表面だけを見て...

高校時代の思い出



三井 利彦 (昭和55年度卒)

かれこれ早いもので、もうすぐ還暦を迎える年になりました... 高校は今と違い...

高校3年間の大切さ



関岡 佑一 (平成11年度卒)

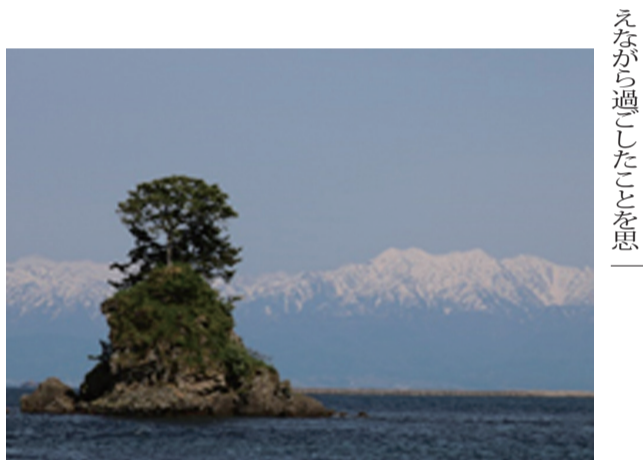
授業の内容そのものはほとんど記憶がないが、個性豊かな先生たちの癖や出来事、授業でのやり取りだけは覚えている...

高校を卒業して、大学に行き、自分の好きな自動車関連企業に就職して...

当時の大崎の先生方はユニークで個性的な先生がたくさんいました...

乗りに乗って、見つからないように正門から離れたところから自転車降りて...

高校時代にもっとたくさん本を読み、たくさん恋をして、勉強ももっと頑張っていたら...



富山県高岡市の雨晴海岸

生からのアドバイスです。地方移住を試みましたが、僅か2年で東京に戻りました...

軽井沢リゾートマンション

宇江 明美 (昭和49年度卒)

2019年7月18日、新幹線に乗って東京から約1時間、都会から瞬間移動したかのような自然豊かな軽井沢に到着しました...

旧軽井沢のにぎわう町並みの途中を一本細い道に入ると、木々が鬱蒼としげった、クマが出没する？ような自然豊かな道を歩くこと少々...

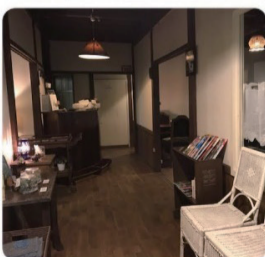
今となったら、夢のよう

2020年2月からの新型コロナウイルス感染拡大は、88才の母と同居している私にとっては毎日が感染の恐怖不安との戦い...

また、本年2月にロシアがウクライナに軍事侵攻、まさか21世紀になって、普通に生活していたウクライナの町並みを爆撃で破壊されていく惨状をテレビ画面で目にするとは、思ってもみなかった...

しかし、自分自身を保つために、大崎高校の時はハンドボール部でしたが、今は下手ではありますが、バドミントンにはまっています...

皆さんはどのようにお過ごしでしょうか？



右から旧姓で鈴木真理子さん、岡部 則子さん、平林 和枝さん、私です



